



みつろう

蜜蝋とミツバチの関係！

かんけい



六ヶ所村立郷土館・(公財) 環境科学技術研究所 共催事業「蜜蝋キャンドルづくり教室」
講師：箭内 敬典さん、箭内 真寿美さん

日本には 2種類のミツバチがいます。古来から住んでいるニホンミツバチと、今から約146年前の明治時代にアメリカから輸入されたセイヨウミツバチです。

してからの寿命は、女王蜂で 1~3年ぐらい、働き蜂は 15~140日、オス蜂は 21~32日といわれています。

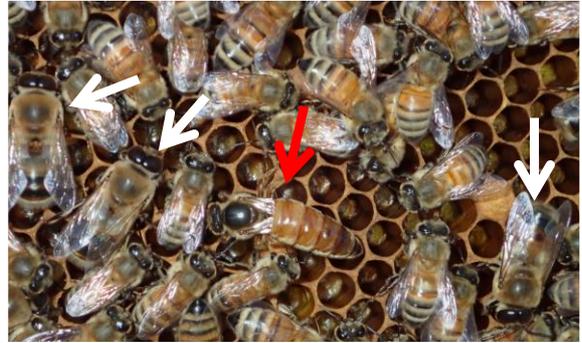


セイヨウミツバチ



ニホンミツバチ

ニホンミツバチは、セイヨウミツバチより体が一回り小さく、とてもおとなしいミツバチです。



セイヨウミツバチ：女王蜂 (赤矢印) オス蜂 (白矢印)

「ミツロウ」って何？

若い働き蜂(羽化後12日目から 20日目ぐらい)は、巣に貯められたハチミツを食べて、体の中でたくさん蝋(ミツロウ)を作ることができ、おなかから分泌されたミツロウで巣を作ります。



ニホンミツバチ：女王蜂 (赤矢印)

ニホンミツバチの巣はたいへんもろく、遠心分離器でハチミツをしぼることができません。

巣には、たった 1匹の女王蜂と数百匹のオス蜂、3千匹~2万匹の働き蜂が住んでいます。羽化してからの寿命は、女王蜂で 1~3年ぐらいで、働き蜂は 30~150日、オス蜂は 30日ぐらいといわれています。

セイヨウミツバチは、体が大きく、大人しくて蜜をたくさん集めるため、世界中に輸入され、今では世界各地で飼われています。

巣には、たった 1匹の女王蜂と千匹ぐらいのオス蜂、数万匹の働き蜂が住んでいます。羽化



「ニホンミツバチ腹部蝋腺から出るみつろう」
日本在来種みつばちの会 理事 藤原愛弓 博士(農学)より許可を得て転載

ミツロウは石油ランプが発明されるまで、中世ヨーロッパの教会で、ろうソクの原料として盛んに、用いられました。このため、ヨーロッパの教会では今でもミツバチの飼育が盛んです。

今日は、温めて柔らかくなったミツロウを使ってキャンドルを作ります！

